



クリスタルマイクロホン

(M220型)



(M225型)



(M230型)



株式会社 小林理研製作所

本 社 東京都北多摩郡国分寺町2431
電話国分寺 580・581・582番
営業部 東京都千代田区神田須田町2の11
電話 神田 (25) 7008・7421

リオンクリスタルマイクロホン

リオンクリスタルマイクロホンは振動板で受けた音圧をロツシエル塩クリスタルに伝へ其の圧電現象に依る起電力を利用したものでありまして弊社の母体である小林理学研究所の指導のもとに幾多の研究と犠牲とを払い製作せられたもので独得の耐湿性耐震性を持つて居り周波数特性が優秀で価格の低廉な事は他種マイクロホンの容易に追隨出来ぬところであります。

クリスタルマイクロホンの美しい音色は既に御承知の方も多し事と存じますがカーボンマイクに聞く様な不快な雑音はなく其上取扱も簡単電源やトランス等を必要とせず又マグネット等も使用致しませんので小型軽量に製作せられて居ります。アメリカに於きましてクリスタルマイクロホンが各種用途に圧倒的に多く使われて居り又我国のNHK及び民間放送局にも広く御愛用を戴いて居りますのも上記の様な優れた特性に因るものであります。

リオンクリスタルマイクロホンには下記の各種が取揃へて御座いますから用途により適宜御選択下さい。

◎M220型

M220型は外観は優美な流線形で僅に仰角を持たせた半指向性の極めて美しいマイクロホンであります。一般拡声装置、録音機等に適し音質耐久性等に於て万能型クリスタルマイクとして特にお奨め出来るものであります。床上又は卓上スタンドに取付けて使用致します。

| 型 式 | 負 荷 イムピー ダンス | 感 度 (1000 \sim) | 周波数特性 200 \sim — 5000 \sim (の感度の偏 差市) | マイクスタ ンドの取付 ネジ | 大 小 | 重 量 (瓦) (コード共) | 附 属 コ ー ド | | 摘 要 |
|-------|-------------------------------|-----------------------|---|----------------------|-----------------------|-------------------|---------------------------|------------|------------------|
| | | | | | | | 種 類 | 長 さ (米) | |
| M—220 | 500k Ω ~1M Ω | —55db | 20db | 16分ノ 5吋 | 別 図 の 通 り | 300 | } 単心シールド キヤブタイ ヤコード | 1.7 | コード 直結 全 上 |
| M—225 | 〃 | —55db | 20db | — | | 225 | | 1.7 | |
| M—230 | 〃 | —60db | 20db | — | | 65 | | 1.7 | |
| 備 考 | 附属コードは御注文によりまして御希望の長さで致します | | | | | | | | |

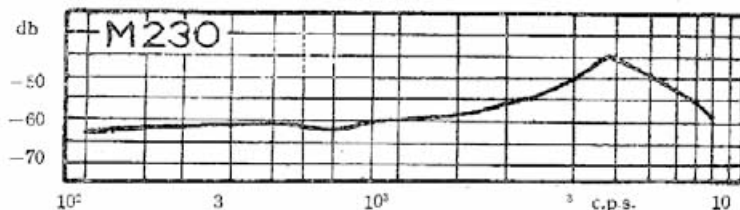
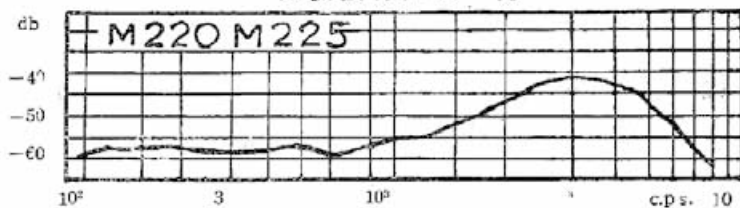
◎M225型

マイクロホンを手を持つて使用する場合は甚だ多いのですがM225型は特に之の目的に浴ぶようにハンドマイクロホンとして設計された新製品でありまして手に握つて使用するのに最適な形をして居りますが又懸吊用壁掛用等にも適します。一般拡声装置録音機等は勿論自動車列車内用として又最近許可されましたシテイズンラヂオのトランシーバー用等にも最適なマイクロホンとして御推奨出来るものであります。

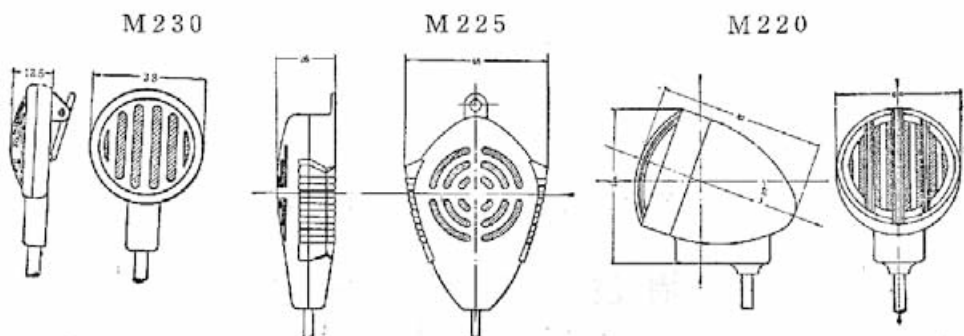
◎M230型

M230型は特にラベル型に設計せられたもので従来のM321型に幾多の研究改良を加へて完成せられたものでありまして超小型にも関らず他の型式のマイクと大差ない感度と特性を持つて居ります小型軽量の点に於ては他種マイクのととも及ぼぬものであります。用途は移動性音源例へば舞台用講演者用等の場合ラベルマイクとして使用せられます。

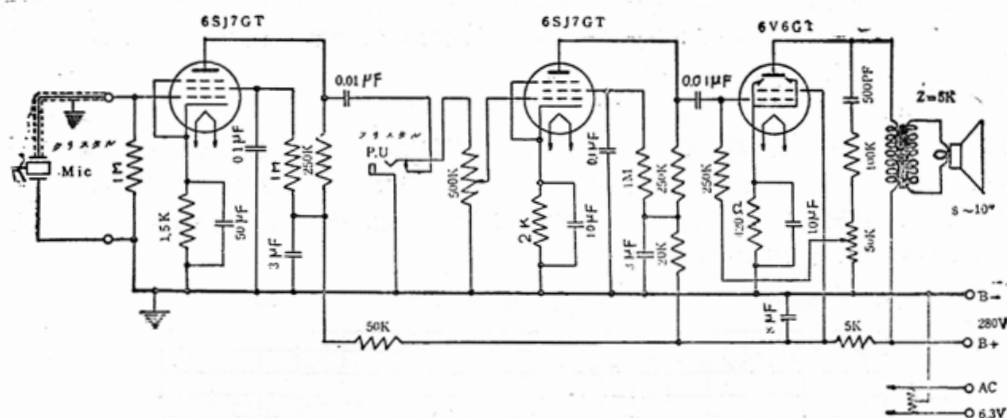
局波数特性の一例



(マイクロホンの主要寸法 概)



クリスタルマイクロホン用増幅器の一例



使用上の注意

- 1、クリスタルマイクロホンの内部抵抗は高インピーダンスでありますので増幅器までの導線は完全にシールドして下さい。
- 2、クリスタルマイクロホンは自己の起電力で働きますから増幅器への接続は上記接続例に示す様に直接真空管のグリッドへ接続して下さい。此の場合負荷抵抗として500K Ω —1M Ω 程度の抵抗を真空管のグリッドとカソードとの間へ入れて下さい。此の抵抗値があまり低いと低音部の感度が低下します。
- 3、炭素マイクロホン用増幅器の端子には直流電圧が出て居る場合が多いです。之の端子にクリスタルマイクロホンを直接接続しない様にして下さい。誤つて接続いたしますとマイクロホンのクリスタル素子を破損する恐れがあります。
- 4、御使用になります増幅器は約80DB以上の利得のあるものでしたらどんな増幅器でも宜しいです。
- 5、マイクロホンをあまり口元に接近し過ぎますと再生音に歪を生じやすいですから音質本位の場合には口元とマイクロホンとの間は少くも10cm以上離して使用されるのが宜しいです。
- 6、マイクロホンの内部インピーダンスは殆んど容量でありますからマイクロホンと増幅器との間の導線が長いとラインの容量が多くなり感度が幾分低下致します。然し周波数特性は変化しませんから増幅器に余裕がある時はラインの長さは相当長くする事が出来ます。10m程度の導線ならば実用上感度の低下は殆んど認められません。但しハムの増加を防ぐ為に出来るだけ良質のシールドキャブタイヤコードを御使用下さい。
- 7、マイクロホンのクリスタル素子は十分の防湿をしてありますが御保存の時はなるべく高温多湿の場所はさける様して下さい。又盛夏の候炎天で使用される時は使用時以外はなるべく日蔭に置いて下さい。

◎ 周波数特性の測定

弊社では完全な防音室と自動周波数特性記録装置を使用して測定を行ひ品質向上に努力致して居ります。